



トラステッドリレーポイントの設定

- [トラステッドリレーポイントの概要, 1 ページ](#)
- [トラステッドリレーポイントのタスクフロー, 2 ページ](#)
- [トラステッドリレーポイントの連携動作と制約事項, 8 ページ](#)

トラステッドリレーポイントの概要

トラステッドリレーポイント (TRP) はメディアストリームに挿入可能なデバイスで、そのストリームのコントロールポイントとして機能します。TRPを使用すると、そのストリームにさらに処理を加えることができます。また、ストリームが特定のパスを通るようにする手段として TRPを使用することも可能です。TRPの機能には2つのコンポーネントがあります。

- Cisco Unified Communications Manager が TRP を呼び出すために使用するロジック。
- コールのアンカーポイントとして呼び出される実際のデバイス。たとえば、メディアターミネーションポイント (MTP) デバイスは、そのようなアンカーポイントとして機能できます。

Cisco Unified Communications Manager は、個々の電話デバイスに設定パラメータを提供します。このパラメータにより、その電話機から発信される、または電話機に着信するすべてのコールで TRP が呼び出されます。TRP リソースの管理には、メディアリソースプールメカニズムが利用されます。その電話機のメディアリソースプールには、TRP として呼び出し可能なデバイスが含まれている必要があります。

トラステッドリレーポイントのタスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	デバイスのトラステッドリレーポイントの設定, (2 ページ) .	メディアが終端する1つ以上のデバイスにトラステッドリレーポイント (TRP) を設定し、TRP を Cisco Unified Communications Manager に挿入します。
ステップ2	メディアターミネーションポイントのトラステッドリレーポイントの設定, (3 ページ) .	デバイスをトラステッドリレーポイントとして使用できるように、メディアターミネーションポイント (MTP) を設定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager に TRP として設定されているデバイスが、TRP とコールに関与するエンドポイントとの間に適切なネットワーク接続と設定を保持していることを確認します。
ステップ3	トランスコーダに対するトラステッドリレーポイントの設定, (4 ページ) .	デバイスをトラステッドリレーポイントとして使用できるように、トランスコーダを設定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager に TRP として設定されているデバイスが、TRP とコールに関与するエンドポイントとの間に適切なネットワーク接続と設定を保持していることを確認します。
ステップ4	トラステッドリレーポイントのサービスパラメータの有効化, (5 ページ) .	TRP リソースが使用できない場合に、TRP を必要とするコールのさらなる処理を許可するかどうかを決定するには、TRP サービスパラメータを有効にします。

デバイスのトラステッドリレーポイントの設定

メディアの終端である1つまたは複数のデバイスのトラステッドリレーポイント (TRP) を設定したり、Cisco Unified Communications Manager に TRP を挿入できます。デバイスの TRP を設定することによって、デバイスは、そのストリームでさらに処理を実行したり、ストリームが特定のパスをたどっていることを確認できます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] の順に選択します。
- ステップ 2 既存デバイスのトラステッドリレーポイントを設定するには、[共通デバイス設定の検索と一覧表示 (Find and List Common Device Configurations)] ウィンドウから、適切なフィルタを指定して [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3 新規デバイスのトラステッドリレーポイントを設定するには、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウから、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 4 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5 [共通デバイス設定情報 (Common Device Configuration Information)] セクションで、[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスをクリックします。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[メディアターミネーションポイントのトラステッドリレーポイントの設定, \(3 ページ\)](#) .

メディアターミネーションポイントのトラステッドリレーポイントの設定

デバイスをトラステッドリレーポイント (TRP) として利用できるようにメディアターミネーションポイント (MTP) を設定できます。

はじめる前に

[デバイスのトラステッドリレーポイントの設定, \(2 ページ\)](#) .

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[メディア リソース (Media Resources)] > [メディア ターミネーションポイント (Media Termination Point)] を選択します。
- ステップ 2 既存のメディア ターミネーションポイントに TRP を設定するには、[メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)] ウィンドウから、該当するフィルタを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3 新しいメディアターミネーションポイントに TRP を設定するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 4 [メディアターミネーションポイントの設定 (Media Termination Point Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5 [メディアターミネーションポイント情報 (Media Termination Point Information)] セクションで、[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[トランスコーダに対するトラステッドリレーポイントの設定, \(4 ページ\)](#) .

トランスコーダに対するトラステッドリレーポイントの設定

トラステッドリレーポイント (TRP) としてデバイスを使用できるようにトランスコーダを設定できます。

はじめる前に

[メディアターミネーションポイントのトラステッドリレーポイントの設定, \(3 ページ\)](#) .

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[メディア リソース (Media Resources)] > [トランスコーダ (Transcoder)] の順に選択します。
- ステップ 2 既存のトランスコーダに対する TRP を設定するには、[トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Trancoder)] ウィンドウから、該当するフィルタを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3 新しいトランスコーダに対して TRP を設定するには、[新規追加 (AddNew)] をクリックします。
- ステップ 4 [トランスコーダの設定 (Transcoder Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5 [メディア サーバトランスコーダ情報 (Media Server Transcoder Info)] セクションで、[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[トラステッドリレーポイントのサービスパラメータの有効化, \(5 ページ\)](#) .

トラステッドリレーポイントのサービスパラメータの有効化

TRP サービスパラメータを有効にすると、TRP リソースが使用できない場合に、TRP を必要とするコールの続行を許可するかどうかを決定できます。

はじめる前に

[トランスコーダに対するトラステッドリレーポイントの設定, \(4 ページ\)](#) .

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
[サーバ (Server)] ドロップダウンリストのみが表示されます。
- ステップ 2 [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[サーバ (Server)] ドロップダウンリストからサーバを選択します。
[サービス (Service)] ドロップダウンリストが表示されます。
- ステップ 3 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
選択されたサーバおよびサービスに基づいて、サービスパラメータが表示されます。
- ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ (デバイス - 全般) (Clusterwide Parameters (Device - General))] セクションから、[トラステッドリレーポイントの割り当てが失敗するとコールは失敗する (Fail Call

If Trusted Relay Point Allocation Fails)] ドロップダウンリストの [True (True)] を選択します。フィールドとその設定オプションについては、「関連項目」の項を参照してください。

ステップ 5 [クラスタ全体のパラメータ (デバイス - H323) (Clusterwide Parameters (Device - H323))] セクションから、[MTP の割り当てが失敗するとコールは失敗する (Fail Call If MTP Allocation Fails)] ドロップダウンリストの [True (True)] を選択します。フィールドとその設定オプションについては、「関連項目」の項を参照してください。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

関連トピック

[MTP および TRP サービスパラメータを選択したときのコールステータス, \(6 ページ\)](#)

[MTP と TRP サービスパラメータが選択されない場合のコールステータス, \(7 ページ\)](#)

MTP および TRP サービスパラメータを選択したときのコールステータス

エンドポイントの [メディアターミネーションポイントが必要 (Media Termination Point Required)] および [信頼されるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の両方のチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は、トラステッドリレーポイント (TRP) でもあるメディアターミネーションポイント (MTP) を割り当てます。管理者がこのような MTP または TRP の割り当てに失敗すると、コールステータスが表示されます。

次の表は、コールが失敗したときに [トラステッドリレーポイントの割り当て失敗時にコールが失敗 (Fail Call If Trusted Relay Point Allocation Fails)] および [MTP の割り当て失敗時にコールが失敗 (Fail Call if MTP Allocation Fails)] のサービスパラメータ値を備えたコールステータスを示します。

[TRP の割り当て失敗時にコール失敗 (Fail Call If TRP Allocation Fails)]	[MTP の割り当て失敗時にコール失敗 (Fail Call If MTP Allocation Fails)]	コール失敗?
[はい (True)]	[はい (True)]	○
[はい (True)]	いいえ (False)	○
いいえ (False)	[はい (True)]	[MTP が H.323 エンドポイントで必要な場合、はい (Yes, if MTP is required for H.323 endpoint)][MTP が SIP エンドポイントで必要な場合、いいえ (No, if MTP is required for SIP endpoint)]
いいえ (False)	いいえ (False)	なし

MTP と TRP サービスパラメータが選択されない場合のコールステータス

[トラステッドリレーポイントの割り当てに失敗した場合コールを失敗させる (Fail Call If Trusted Relay Point Allocation Fails)] サービスパラメータ、および [MTP の割り当てに失敗した場合コールを失敗させる (Fail Call If MTP Allocation Fails)] サービスパラメータの両方が、False に設定されている場合に、MTP が必要かどうか、[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定、およびリソースの割り当て状況に関するコールの動作を、次の表に示します。

MTP が必要かどうか	TRP の使用	リソースの割り当て状況	コールの動作
Y	Y	TRP の割り当てあり	パススルーサポートがないため音声通話のみです。
Y	[Y] または [N]	MTP のみ	音声通話のみです。TRP のサポートはありません。
Y	[Y] または [N]	割り当てなし	H.323 エンドポイントで MTP を必要とする設定にしている場合、補足サービスは無効になります。
N	Y	TRP の割り当てあり	エンドポイントの機能、またはコールアドミッション制御 (CAC) に応じて、音声またはビデオ通話のどちらかになります。補足サービスは動作します。
N	Y	割り当てなし	音声またはビデオ通話。補足サービスは動作しますが、TRP のサポートはありません。

トラステッドリレーポイントの連携動作と制約事項

トラステッドリレーポイントの連携動作

機能	データのやり取り
リソース予約プロトコル (RSVP)	RSVP がコールに対して有効な場合、Cisco Unified Communications Manager は最初に TRP としてもラベル付けされている RSVPAgent の割り当てを試みます。それ以外の場合は、別の TRP デバイスが RSVPAgent とエンドポイントの間に挿入されます。
コール用のトランスコーダ	コールにトランスコーダが必要で、TRP を必要とするエンドポイントと同じ側にトランスコーダを割り当てる必要がある場合、Cisco Unified Communications Manager は最初に TRP としてもラベル付けされたトランスコーダの割り当てを試みます。それ以外の場合は、別の TRP デバイスがトランスコーダとエンドポイントの間に挿入されます。

トラステッドリレーポイントの制限事項

表 1: トラステッドリレーポイントの制限事項

制約事項	説明
<p>エンドポイント向けトラステッドリレーポイントの挿入</p>	<p>エンドポイントまたはデバイスに関連付けられているデバイスプールのいずれかで、[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスをオンにした場合、Cisco Unified Communications Managerはそのエンドポイント向けにTRPを挿入する必要があります。[トラステッドリレーポイントの割り当てに失敗した場合コールを失敗させる (Fail Call If Trusted Relay Point Allocation Fails)] サービスパラメータが、Trueに設定されている場合、Cisco Unified Communications ManagerがTRPの割り当てに失敗すると、コールが失敗することがあります。</p>
<p>エンドポイント向けメディアターミネーションポイントの割り当て</p>	<p>エンドポイント向けに、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスおよび[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Managerは、TRPを兼ねるMTPを割り当てます。管理者がそのようなMTPまたはTRPの割り当てに失敗すると、コールの状態が表示されます。</p>
<p>トラステッドリレーポイントの割り当て</p>	<p>ほとんどのインスタンスでは、ユーザがコールに応答した後に、TRPが割り当てられるため、TRPの割り当ての失敗によりコールが失敗する場合、ユーザがコールに応答すると短い間隔の話中音を受信する可能性があります (MTPが必要なSIPアウトバウンドレグ、つまりH.323アウトバウンドFastStartは例外です)。</p>

